



【所長から】

## 体を通して考えること

山梨県教育委員会 峡東教育事務所 所長 深澤 真人

1人1台端末の整備が進み、学校教育におけるICT活用は今や特別な取組ではなく、日常の学びとして定着してきた。情報に触れ、調べ、つなぎ、表現する力を育てる上で、デジタル技術が果たしている役割は極めて大きい。その価値を否定するものではないが、画面の中で効率的に完結する学びが広がる今だからこそ、そこでは十分に育てきれない学びがあるのではないかという問いへ、私たちは目を向ける必要がある。考える力とは、頭の中だけで完結するものではなく、迷い、判断し、選び、行動に移し、その結果を受け止めるところまで含めて、初めて現実の力となる。思考は本来、身体感覚や動きと結び付いた営みだからだ。

近年、「コスパ」や「タイパ」といった言葉が、学びの場面においても違和感なく使われるようになった。無駄を省き、限られた時間で成果を求める姿勢そのものも否定はしない。しかし、効率や即時性を重視するあまり、考え抜くこと、仲間と相談すること、迷いながら行動すること、失敗すること、思うようにいかず立ち止まることといった経験が、過度に避けられてはいないだろうか。便利であることと人が育つこととが、常に同じ方向を向いているとは限らない。失敗や挫折は精神論や根性論で乗り越えられるものではなく、実際の経験を通して少しずつ受け止め方を学んでいくもの。これはまさにトレーニングである。

体を動かしながら考える経験はその典型だ。スポーツをはじめとする体験活動では、知識や理屈だけでは身に付かない学びが生まれる。恐怖や不安、思い通りにならない状況の中で、「今、自分はどう動くべきか」「何が周囲のためになるのか」を瞬時に判断し、行動に移す。成功と失敗を繰り返しながら、振り返りを通して次の選択へとつなげていく過程そのものが、思考と行動を往還させる学びとなる。そこでは、目立つ成果や勝ち負けだけでなく、支える役割や集団への貢献が重視され、自分の立ち位置を考え直しながら、もう一度立ち上がる力が育まれる。

こうした力は、いわゆる非認知能力と呼ばれる領域と重なるが、認知能力と対立する概念ではない。むしろ、学びの質を下支えする基盤として、相互に深く関わり合っている。重要なのは、特定の競技や活動に限ることではなく、運動や体験活動に内在する試行錯誤や失敗を、どのように振り返り、次の行動へと結び付けていくかだ。活動後に感じたことや考えたことを言葉にすることで、経験は単なる出来事ではなく、これから先を生きる力へと変わっていく。

体を動かすと同時に考え、成功・失敗し、そこから立ち上がる経験は、教室の中だけでは育てきれない「生きる力」を培う。ICT活用を進めることと、体を通した経験を大切にすることは、そのどちらかを選ぶというような話ではない。両者をどう結び、どのような学びを子どもたちに保障していくのか。その価値を現場任せにせず、その判断を誤らないことこそが、今を生きる大人一人一人、とりわけ教育に責任を持つ立場の者に強く問い掛けられていると、私は思う。



所長 深澤 真人 氏

平成4年、小笠原小学校教諭として教壇に立つ。塩山南小学校・加納岩小学校教頭、義務教育課管理主事を経て、令和7年度から峡東教育事務所に勤務。趣味は、食寝遊の三楽道。

## 地域の協力で身近に感じる社会体験 ～働く自動車～

【山梨市立岩手小学校】

令和7年12月12日（金）、岩手小学校グラウンドで「重機の試乗体験・働く車についての学習」が行われました。国語の学習「じどう車くらべ」に合わせて山梨県建設業協会が主催し、全校児童が参加しました。建設業を身近に感じ、将来の興味や進路につながる気づきを得てもらうことを目的とした取り組みです。

### 迫力の体験に笑顔と歓声があふれる

児童は4つのグループに分かれ、バックホウ、高所作業車、ホイールローダー、モーターグレーダー、道路パトロールカーの乗車体験を行いました。中でも12メートルまで上昇する高所作業車は大人気で、「めっちゃ楽しい!」「けっこうこわい!」といった声が上がりました。パトロールカーでは、児童が「パトロール中です」と照れながらのアナウンスに、会場が笑顔に包まれる場面もありました。



元気の声の挨拶からはじまる



バックホウ



ホイールローダー



高所作業車



山梨県道路パトロール  
パトロールカー

### 異学年交流で広がる学びと絆

当日はヘルメットを着用し、安全に配慮しながら実施されました。異学年で構成されたグループでは、高学年児童がリーダーとして低学年をサポートする姿が見られ、協力し合いながら活動する良い機会となりました。また、児童からは「この重機は何に使うのですか」といった質問が多く寄せられ、スタッフが丁寧に答えることで学びが深まっていました。

主催者は「重機の面白さや仕事の楽しさを知ってもらいたい」と話しており、体験を通して得た驚きや発見が、子どもたちの探究心を育む貴重な時間となりました。

## 「心のバリア」を見つめ、行動につなげる学び～バリアフリー教室～【甲州市立勝沼小学校】

### 体験を通して学ぶ「心のバリアフリー」

1月27日（火）、体育館にて3年生を対象にバリアフリー教室が行われました。山梨県自動車整備振興会や甲州タクシー（株）の方々を講師に招き、「心のバリアフリー」を身につけることを目的として実施されました。『点検くん・整備ちゃん』が登場後、「子ども110番の家」の役割と利用について説明されました。

### 車椅子・視覚障害・介助…立場を変えて気づくこと

続いて、児童は3グループに分かれ、車椅子体験、視覚障害疑似体験、車椅子でのタクシー乗降とそれぞれの介助を体験しました。初めて車椅子に乗りたり押ししたりする児童も多く、「もう一回やる!」と何度も挑戦する姿が見られました。楽しみながらも、障害のある人や介助する人が感じる不便さ・難しさに気づく様子が印象的でした。

### 思いやりを行動へつなげる力を育む

体験を終えた児童からは「アイマスクをした時は、真っ暗で不思議だった」「車椅子を押すのは難しかったけれど上手にできた」といった声が寄せられました。また、「困っている人がいたらできることをしたい」「良い街にしたい」という児童からの頼もしい声もありました。バリアフリー教室は、障害を“個人の問題”ではなく“社会の問題”として捉え、「お手伝いしましょうか」と声をかけられる行動の力を育てます。体験で得た学びを家族や地域に伝えることで、心のバリアフリーが広がっていることを実感できました。



点字ブロック上を歩く



障害物に当たらないように



重いけど頑張って



大人を介助してみる



大人気

## 昔の遊びで広がる笑顔と交流 ～昔の遊び体験～

【山梨市立後屋敷小学校】

### 世代を超えて学ぶ「昔の遊び」

1月29日、特別教室で昔の遊びを体験する授業が行われました。1年生が、地域の方々とふれあいながら、昔から伝わる遊びの楽しさを学ぶことをねらいとした授業です。当日は後屋敷老人クラブの皆さん20名以上が参加され、笑顔あふれる温かな交流の時間となりました。



多くの地域の方が参加

### 初めての体験に夢中

こま回し、あやとり、おはじき、けん玉など全6種類の遊びを体験しました。家庭や地域で触れる機会が少なくなった遊びに、児童たちは興味津々でした。うまくできない場面でも諦めずに何度も挑戦し、地域の方が一人ひとりに寄り添いながら優しく教える姿が印象的でした。会場は笑顔と歓声に包まれ、終始和やかな雰囲気広がりました。

### 地域とつながる大切な時間

「全部楽しかった」と話す児童も多く、記念撮影では地域の方の膝に座る微笑ましい姿も見られました。参加者からは「普段なかなか子どもと話す機会がないのでうれしい」との声も聞かれました。昔の遊びを通して、児童が集中力や創造性を育むとともに、地域とのつながりや他者を思いやる心を育てる貴重な機会となりました。



こま回し



竹とんぼ



あやとり



お手玉



けん玉



おはじき

## 探究がつなぐ学びの未来 ～桃探サミット2026～

【山梨県立高等支援学校桃花台学園】



各教室で各グループの発表が行われた

2月26日(木)、各学年の教室および体育館を会場として、本年度取り組んできた「桃探」の学習成果発表を行いました。「桃探」とは、桃花台学園における総合的な探究の時間の略称で、身近な疑問を出発点に、問いや課題を設定し、情報の収集・整理を進め、分かったことや改善案をまとめて発表する、1年間を通して学びを深める取り組みです。桃探サミットは全校生徒が参加するイベントであり、多くの保護者、PTA、学校運営協議会委員、地域大学や教育関係者、企業、大学生など、さまざまな立場の方も参加し、発表者と来場者が一体となって考え、学ぶ、実りある交流の場となりました。

### 生徒主体で進む多彩な発表

体育館で行われたオープニングでは、生徒が中心となって会を盛り上げ、期待の高まるスタートとなりました。その後は各学年の教室に分かれ、1年生は学校行事を通じた「チームづくり」、2年生は修学旅行先である「沖縄」、3年生は「地域・身体・生活」をテーマに、それぞれの視点から考察した成果を発表しました。

### 学びを広げる対話の場

質疑応答では、生徒同士による活発なやり取りが途切れなく続き、保護者やアドバイザーの方々からも多角的な意見や助言が寄せられました。生徒たちは真剣に耳を傾け、次の探究につながる新たな視点を獲得していました。自ら問いを立て、調べ、提案する生徒の姿からは、探究の楽しさと達成感が伝わってきました。

桃探サミットは、参加したすべての人に新たな学びと気づきをもたらす貴重な機会となりました。今後も、総合的な探究の時間をさらに深める新たな取り組みを通して、生徒の一層の成長が期待されます。



アドバイザーから称賛の言葉が贈られた

## 挑戦する心が未来をひらく～デフリンピック選手報告会～

【山梨県立ろう学校】



選手を全力でお祝い

### 銅メダル3選手が来校、子どもたちと交流

1月26日(月)、体育館でデフリンピック選手報告会が行われました。来校したのは、卓球の亀澤史憲選手、柔道の佐藤正樹選手、自転車の藤本六三志選手の3名。昨年11月の東京デフリンピックで銅メダルを獲得した3選手が、その成果を子どもたちに報告しました。お祝いの踊りやエールが贈られるなど、温かい雰囲気ではじめました。



3選手が揃う貴重な時間

### 競技体験に大盛り上がり！選手とふれあう特別な時間

幼稚部・小学部・中高等部に分かれ、選手ごとの分科会を実施。動画や写真による解説に加え、卓球、柔道・相撲、自転車に触れる体験が行われ、子どもたちは興味津々でした。柔道の佐藤選手に相撲で挑んだ園児が仲間と力を合わせて勝つ場面や、実際のメダルに触れて大きさや重さを実感する姿も見られました。**諦めない気持ちの大切さを受け取って**

子どもたちからは「選手と話せて嬉しかった」「体験をもっとやりたい」との声が多く聞かれ、3選手からの「諦めずに挑戦すること」「応援が力になった」という言葉は、子どもたちに勇気と元気を与えました。今回の報告会は、デフリンピックが示した「多様な人が、多様に楽しめる社会」の姿に触れ、子どもたちが挑戦する心を育む貴重な機会となりました。



あの感動場面を解説



選手を見つけて画面を指さす



児童が作成したメダルを贈呈



選手と試合ができた！



力を合わせて選手に勝つ

## 地域を越えて学び合う～高校生世界農業遺産サミット～【山梨県立笛吹高等学校】

### 探究の成果を世界と共有

令和8年3月13日(金)、笛吹高校主催による「第3回 高校生世界農業遺産サミット」が開催されました。本サミットは、これまでの探究活動を振り返り、その成果や学びを共有するとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力を実践的に発揮することを目的としています。峡東地域の果樹栽培が世界農業遺産に認定されたことをきっかけに始まりました。

### 世界農業遺産から考える地域と未来

当日は、農林水産省の二階堂様による基調講演が行われ、世界農業遺産の価値や継承の視点について学びました。続いて、台湾の国立中興大学附属高級農業職業学校、静岡県立田方農業高校、宮城県古川黎明高校がオンラインで研究成果を発表しました。また、笛吹高校2年生の会場発表では、明治以降の地図比較をもとに、桑畑が戦後に果樹畑へと急速に転換していった実態を示し、歴史的背景と地域経済との関係に踏み込んだ考察が行われました。

午後は、各教室で会場参加の甲府第一高校や桃花台学園の生徒も交えたラウンドテーブルを実施し、これまで進めてきた探究活動を振り返りながら、「なぜ」を軸とした探究の深まりを互いに発表しました。参加した生徒からは、「提案で終わらせず、将来は実行につなげたい」「他校の取り組みを知り、意見を交わすことで学びが広がった」といった



メイン会場での発表(各教室配信)



探究活動の成果・成長セッション



ミライを見つめるセッション

声は聞かれ、人とのつながりや地域の可能性を実感する機会となりました。今後も、教科横断型STEAM教育として展開されている新教科「笛吹グローバル」は、地域連携を軸に、生徒だけでなく、伴走する教員の育成の面でも注目される取り組みとして継続されます。

## ともに奏でる学びの輪～令和7年度 甲州市生涯学習推進大会～【甲州市生涯学習市民協議会】

### 世代をつなぐ生涯学習の舞台

令和8年2月14日、甲州市民文化会館で生涯学習推進大会が開催されました。テーマは「ともに学び合い・ともにふれあい・ともに支えあい」です。地域の自然・歴史・文化を再発見し、世代を越えた学びを推進する場として、多くの市民が集いました。

### 子どもたちが語る「地域への想い」

小・中・高校生による意見発表では、日頃の学びから生まれた提案が披露されました。勝沼小6年・長濱快人さんは文化を守り未来へつなぐ大切さを語り、勝沼中3年・角田煉さんは農業体験を通じて得た“歴史をつなぐ責任”を述べました。塩山高校3年・大塩弥輝さんは、母子健康手帳の世界普及という国際的な視点を示し、会場に新たな気づきを届けました。

### 歌声が広げる地域のつながり

童謡フェスティバルでは、同世代で構成された合唱団に加え、子どもが加わる編成の団体も発表しました。小学生による指揮や歌声が舞台を温かくリードし、会場には一体感が生まれました。また、若林秀和さんらアーティストとの共演もあり、童謡を通じた地域の交流がますます深まりました。



## ことぶき勸学院『入学式』 甲府・峡東教室『開講式』

## 【山梨ことぶき勸学院】

山梨ことぶき勸学院では、今後求められる新たなシニアのライフスタイルを創造するために、「生きがいの創出」「新たな縁・絆の構築」「地域に貢献できる人材の育成」「健康増進」の実現を目指しています。

### 入学式（4月14日・山梨県立文学館）

山梨ことぶき勸学院の入学式が県立文学館講堂で行われました。甲府・峡東教室の新入生は、57名と今年度も多くの生徒が入学をしました。式では、学院長の荻野智夫教育長から、『社会構造の変化が激しい現代において必要なことは、柔軟性と学び続ける姿勢が大切である』というお話がありました。生徒たちは、志の同じ仲間と共に多くのことを学び、地域社会を支える人材になることが期待されています。

### 開講式 甲府・峡東教室2年（4月21日）、1年（4月24日）

各学年で開講式が行われました。開講式では、峡東教育事務所の深澤真人所長より祝辞をいただき、気持ちを新たに学びに向かう意識が高まりました。開講式終了後はクラスごとに写真撮影、オリエンテーションを行い、共に学ぶ仲間と親交を深めることができました。



## ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ 峡東教育事務所からのお知らせ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

- ◆皆様のご協力により「異校種間授業参観可能日一覧表」「県立学校出前授業一覧表」が完成しました。
- ◆地域情報紙エリアウェブを通じて、「他校種の情報を知ることができる」「連携のきっかけになる」とのお声を寄せていただいております。特別なイベントである必要はありませんので、お気軽に情報をお寄せください。（記事として峡東地域で紹介させていただきます。現在約300カ所に配布中）

☎ 0553-20-2731（担当・直通）

# 山梨県教育委員会 峡東教育事務所 地域教育推進事業について

## 【主な業務】

- ① 峡東地域教育推進連絡協議会の運営
- ② 地域教育情報誌「エリアウェーブ」の発行
- ③ 幼保・小・中・高・特支・大学の連携推進
- ④ 成人教育の推進（山梨ことぶき勸学院他）
- ⑤ 子育て・地域連携・人権に関する講演会の開催
- ⑥ 青少年教育の推進（やまなし少年海洋道中他）
- ⑦ 異校種間授業参観・県立学校出前授業の推進
- ⑧ いきいき教育地域人材活用推進事業
- ⑨ ふるさと山梨郷土学習コンクール
- ⑩ SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）活用事業

## 【スタッフ紹介】

### ○ 教育支援スタッフ（担当）

主幹・指導主事 風間 謙（かざま けん） & 副主幹・指導主事 手塚 誠（てづか まこと）

これまでの活動を引き継ぎながら「家庭・地域・学校の繋がり」を大切にしたいと取り組むことを推進していきたくて考えています。指導主事は都道府県及び市町村の教育委員会に置かれる専門的職員ですので、地域教育に関わるご相談等があればお声がけください。みなさまのご支援とご協力をよろしくお願いします。

### ○ スクール・ソーシャル・ワーカー（SSW） 大原 早紀 & 手塚 雅子 & 金丸 和仁

管内の児童・生徒の問題解決を支援するため、スクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）がサポートいたします。何か悩みごと等がありましたら、一人で悩まずお気軽にご相談ください。

## 令和8年度 峡東地域教育推進連絡協議会 事業計画（案）

### 1 『総会』（役員のみ参加・依頼文書を発送）

日時 令和8年7月10日（金）14:00～14:45  
会場 甲州市民文化会館  
内容 峡地連の組織・事業報告・事業計画・会則・その他

\*\*\*\*\*

### 2 『子育て講演会』（甲州市教育委員会共催）

日時 令和8年7月10日（金）15:00～17:00（総会終了後）  
会場 甲州市民文化会館  
内容 発達特性や問題行動への具体的な関わり方を、最新の知見と実例から学ぶ講演  
講師 山梨大学大学院総合研究部 教育学域教育学系（障害児教育講座） 教授 吉井勘人 氏

\*\*\*\*\*

### 3 『地域教育セミナー』（笛吹市教育委員会共催）

日時 令和8年8月20日（木）15:00～17:00  
会場 いちのみや桃の里ふれあい文化館  
内容 企業の人材育成の視点から「人の育ち」や心の育成を考える講演  
世界のビジネス現場で培われた知見を、教育や地域づくりに生かします  
講師 みずほフィナンシャルグループ執行役 秋田夏実 氏

\*\*\*\*\*

### 4 『人権のための講演会』（山梨市教育委員会共催）

日時 令和8年11月12日（木）15:00～17:00  
会場 山梨民文化会館  
内容 支援や教育に関わる大人自身の心身の負担に着目し、援助者のセルフケアや支援を続けるための視点について考える講演  
講師 山梨県立大学人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 山中達也 氏

\*\*\*\*\*

### 5 『実務者会』（実務者のみ参加・依頼文書を発送）

日時 令和9年2月4日（木）15:30～16:30  
会場 東山梨合同庁舎 103会議室  
内容 峡地連活動総括と来年度の計画について

『子育て講演会』  
への申込は  
下記 QR または URL から



(<https://forms.office.com/r/UaFhDcNJSS>)